

第6回昭和の森「親子田んぼ教室」草取り編

綾富美子（千葉市）

日 時：2014年7月20日（日）9～12時 天気：晴れ

参加者：大人7名 子ども9名 合計16名

指導員：綾富美子 小林義和 後藤菊子 山田益弘 山下美佐子

応 援：岡田富子（昭和の森ビオトープの会）



「親子田んぼ教室」は例年5月の田植え、9月の稲刈りの2回実施でしたが、今年は途中で稲の生育状況や、田の管理が暑い最中どんなに大変で大事な作業なのかを体験してもらおうと追加されました。暑い中なので欠席者も出るかと想定していましたが、全員集まりました。

草刈を実施する前に、まず稲の生育状況の説明がありました。

例年以上に畦にアメリカザリガニの穴が多く、温められた田の水がどんどん抜け、それにつれて冷たい水が流れ込み、通常太陽に温められた水田で育つ稲が育たない。又、アメリカザリガニは稲の根を切り、稲の成長を悪くするとお話をありました。アメリカザリガニを一掃するのは大変難しく、無農薬の田では尚更です。この田はビオトープの田として作っているので、米作りは収穫量を期待していませんが、この先も

「親子田んぼ教室」を継続するには、この問題を何とかしなければ、参加者の期待に応えられない事態になりかねません。ビオトープの会の今後の課題です。畦の草刈は20分作業、休憩、20分作業ですっかり綺麗になりました。

後半は生き物観察と紙芝居風「田んぼの生き物のつながり」を行いました。生き物観察は、それぞれ網を持って、池や川の「チョウやトンボなどの昆虫やメダカやドジョウなどを採取して皆で観察しました。「生き物のつながり」は観察したメダカ、ヤゴ、ツチイナゴ、カマキリ、トンボ、ツバメなどが「食べる、食べられる」の関係でつながり、命のバトンを渡していることを知りました。

今回も暑い中、怪我もなく無事に終わり、元気な子どもたちの満足そうな顔を見て、ひと安心しました。

